



大阪錦画日々新聞紙 四十二号

東京南品川宿五百蒸気船水夫甲申市五島の明治七年二月より

女房を置き去り家出せし九年と四月もあらず季に於  
 鮎の經切り暮しふ尺で女房へあつた同職何某と  
 心ふ深まね親しみおとろく凌ぎてをいふ

今年五月の末頃ちと近へ  
 迎戻り家の様子を奪し

死焼つひもせぬ気の石炭  
 我ら火を倍よくて裏く

胸の早車張く筒先内へ

女房が首筋引かへんや  
 ろ小娘未を礼とや

いふ口へ  
 捨棄するから

せ火箆をやらせありて手足五條小神

當てる半死半生火官の責苦非道

なる恋の鬼跡らやせし事を

文花堂誌

大阪錦画日々新聞紙

あり忠治  
 錦画日々新聞紙  
 四十二号

母女房が聴へ訴へ直す

市五島へ召まられ奉

神吟味中ありと

報知六頁五号  
 二出せう

大阪錦画日々新聞紙42号 文庫10-8068-33

早稲田大学図書館蔵 / Waseda University Library

